

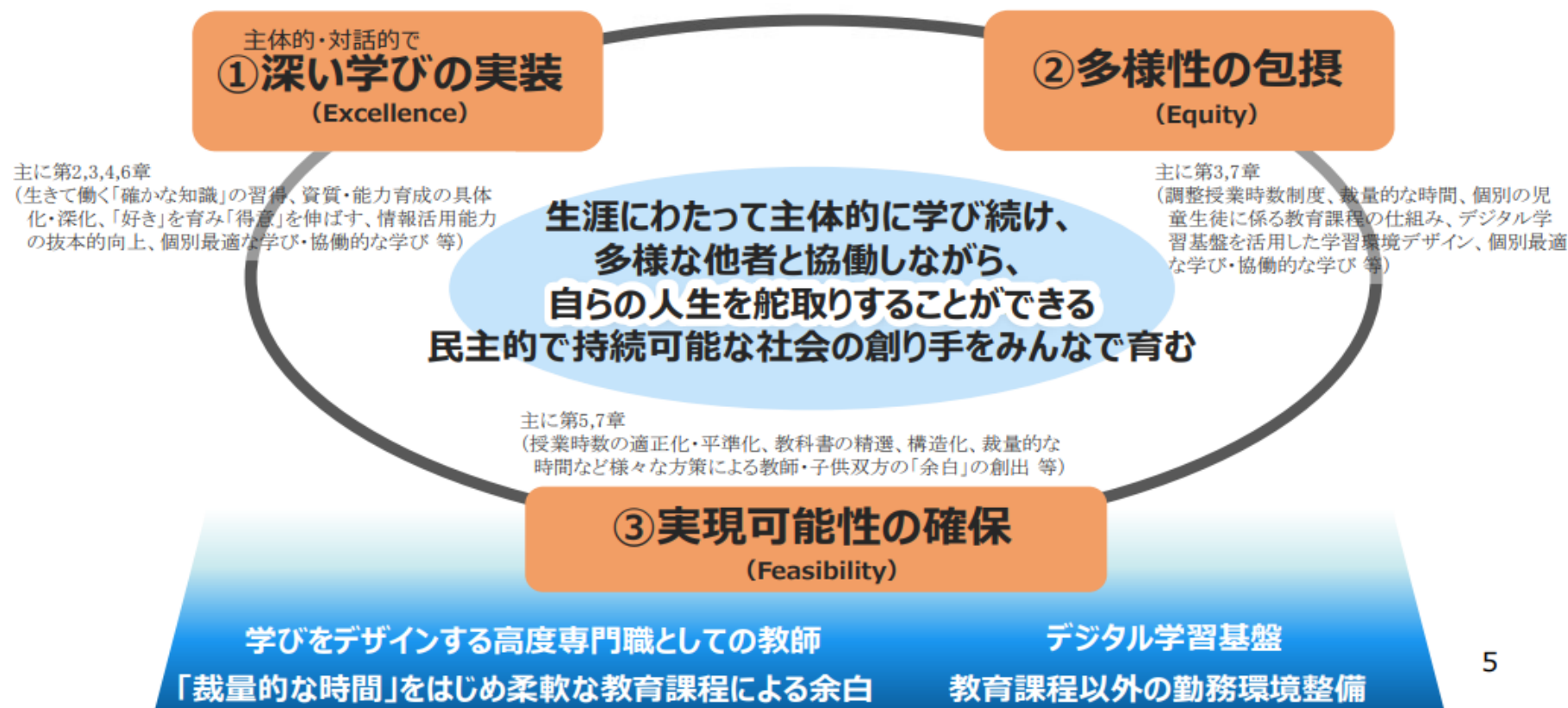
改めて学習指導要領から 体育の授業を考える

徳島県教育委員会
体育健康安全課
指導主事 森永 達也

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化



「体ほぐしの運動における個々の運動のねらいを理解すること」の通過率は95.5%であり、相当数の児童ができています。一方で、「体ほぐしの運動の目的を理解すること」の通過率は37.3%であり、課題があると考えられる。体ほぐしの運動については、個々の運動のねらいの理解度とそれらを総括した領域の目的の理解度に差が見られる。

目的の理解に課題
本質的な理解が不十分

令和4年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点
（小学校 体育（運動領域））

1. 今回の調査結果の特色

(1) ペーパーテスト調査結果の主な特色

① 今回の改訂の基本方針に関する事項の実現状況、課題等

ア 運動に関する知識及び技能の習得

- 該当する13問のうち、相当数の児童ができていたものが4問、課題があると考えられるものが9問である。
- 「バスケットボールのゲームで、ボールを保持した際に、適切な状況判断をすること」[6-1(15)]及び「その状況判断の理由を説明すること」[6-1(15)]の通過率は、それぞれ94.6%、83.4%であり、相当数の児童ができています。
- 「表現の授業における題材（火山の爆発）に対して、適切な表現の仕方を選ぶこと」[6-1(18)]の通過率は84.3%であり、相当数の児童ができています。
- 「体ほぐしの運動における個々の運動のねらいを理解すること」[6-1(2)]の通過率は95.5%であり、相当数の児童ができています。一方で、「体ほぐしの運動の目的を理解すること」[6-1(1)]の通過率は37.3%であり、課題があると考えられる。体ほぐしの運動については、個々の運動のねらいの理解度とそれらを総括した領域の目的の理解度に差が見られる。
- また、「開脚跳びの行い方を理解すること」[6-1(5)]の通過率は54.9%、「側方倒立回転の行い方を理解すること」[6-1(6)]の通過率は40.2%、「平泳ぎの行い方を理解すること」[6-1(12)]の通過率は50.6%、「テニスボールのゲームで、打球した際に、適切な状況判断の理由を説明すること」[6-1(16)]の通過率は52.6%であり、課題が見られる。

イ 運動課題の発見・解決等のための思考力、判断力、表現力等の育成

- 該当する10問のうち、相当数の児童ができていたものが2問、課題があると考えられるものが8問である。
- 「フォークダンスの練習の仕方を工夫すること」[6-1(19)]の通過率は80.5%であり、相当数の児童ができています。
- 「体の柔らかさを高めるための運動を選ぶこと」[6-1(4)]の通過率は84.7%であり、相当数の児童ができています。一方で、「巧みな動きを高めるための運動を選ぶこと」[6-1(3)] [6-1(4)]について問うた2問の通過率は、それぞれ34.7%、45.7%であり、課題が見られる。体の動きを高める運動のねらいに応じた運動を選ぶことについては、運動のねらいによって実現状況に差が見られる。
- また、「クローリングにおける自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫すること」[6-1(14)]の通過率は38.5%であり、課題が見られる。

ウ 主体的に学習に取り組む態度等の学びに向かう力、人間性等の開発

- 該当する7問のうち、相当数の児童ができていたものが5問である。
- 「仲間と助け合って運動をしようとしていること」[6-2(1)]の通過率は80.3%、「水泳運動の心得を守って安全に気を配っていること」[6-2(4)]の通過率は94.4%、「分担された役割を果たそうとしていること」[6-2(5)]の通過率は85.1%、「互いの動きや考えのよさを認め合おうとしていること」[6-2(6)]の通過率は90.6%、「その理由を説明すること」[6-2(6)]の通過率は83.7%である。運動やスポーツの価値である公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等に関する態度の理解については、相当数の児童ができています。
- なお、本調査は、児童の学びに向かう力、人間性等の涵養の実現状況ではなく、上記の態度に関する行い方の理解度を把握するものであることに留意が必要である。

改めて学習指導要領を見してみる

小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説

体育編

平成 29 年 7 月



文部科学省

本日の内容

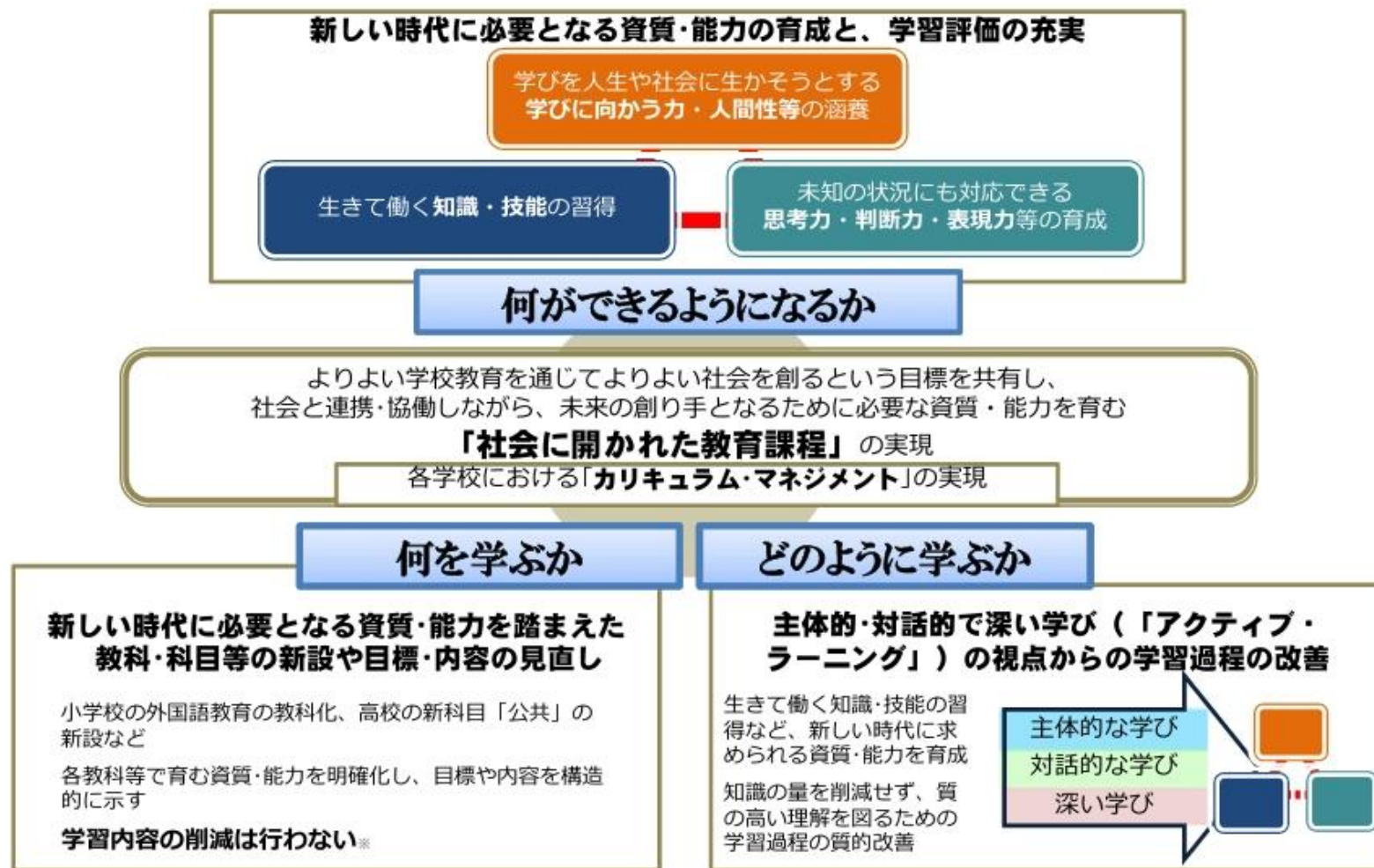
- ・ 基本的な学習指導案の作り方、考え方
(学習指導要領：運動の特性、保健領域)
- ・ 系統性について (ボール運動系を中心に)
- ・ 授業者が課題と感じていること

本日の内容

- ・ 基本的な学習指導案の作り方、考え方
(学習指導要領：運動の特性、保健領域)
- ・ 系統性について (ボール運動系を中心に)
- ・ 授業者が課題と感じていること

改めて学習指導要領を見ていく

学習指導要領改訂の考え方



※高校教育については、終末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）答申関連資料集（1/2）【総論関係】より

カリキュラム・マネジメントの実現

- ①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
- ⑥「実現するためには何が必要か」（学習指導要領の理念を実現するために必要な方策）

基本研修指導案様式

体育科学習指導案

令和〇年〇月〇日 第〇校時

〇〇小学校 〇年 〇組 〇〇名

指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 (例)「体づくりの運動遊び」、「マット運動」、「サッカー」

2 単元について

(1)教材観 ※教材の特性、学習指導要領の教科等目標や学年の目標、年間指導計画等との関連 など

(2)児童観 ※児童の学習経験や実態、予想される児童の学習活動 など

(3)指導観 ※教材観や児童観を踏まえた上での指導のポイントや工夫 など

3 単元の目標 ※単元の目標は「～することができるようにする。」の文末表現で記述する。

(1)・・・【知識及び技能(体づくり運動系は運動)】

(2)・・・【思考力、判断力、表現力等】

(3)・・・【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準 ※評価規準の項目数は、必ずしもこのとおりではない。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| ①【知識について】 ※文末は「～について、言ったり書いたりしている。」 ※低学年は、文末を「～について、言ったり実際に動いたりしている。」としてもよい。 | ① ② ※文末は「～している。」 (例)「選んでいる。」 「伝えている。」など | ① ② ③ ④ ⑤ ※～しようとしている。」 健康・安全の文末は「～している。」 |
| ②【技能について】 ※文末は「～できる。」 | | |

- 1 単元名
- 2 単元について
- (教材観)・・・学習指導要領から教材の特性など
- (児童観)・・・児童の学習経験や実態、予想される児童の学習活動など
- (指導観)・・・指導のポイントや工夫
- 3 単元の目標
- 文末 ～することができるようにする。
- 4 単元の評価規準 (文末)
- 知 ～について、言ったり書いたりしている。
- 技 ～できる。
- 思・判・表 ～している。
- 主 ～しようとしている。
- 健康・安全の文末は～している。

基本研修指導案様式

指導と評価の計画
○児童の意識の流れを想定しながら学習内容を設定する

5 指導と評価の計画(7時間) (例)第4学年 マット運動

・時間数、学習活動等に応じて、枠を加工して作成する。→帯でとっている口の中も、自分の授業に合わせて作成する。

| 時 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | | | |
|----------------------------|--|--|---|--|-------------|-------------|-------------|--|--|--|--|
| 学 習 活 動 | 0 オリエンテーション 1挨拶 | 1準備 2挨拶 3準備運動、主運動につながる運動 4 本時のめあてを確認する | | | | | | | | | |
| | 2単元の見通しをもつ ・単元の目標と学習の進め方を知る。 ・学習のきまりを知る。 | 5 マット運動の自己のできる技に取り組む ・基本的な技の行い方を知る。 【回転系グループ】 ・前転・暴い場での開脚前転 ・後転・開脚後転 【回転系側立回転グループ】 ・補助側立ブリッジ ・側方側立回転 【巧技系側立グループ】 ・壁側立・頭側立 | 5 マット運動の自己のできる技を繰り返したり組み合わせたりする ・技を繰り返したり組み合わせたりする行い方を知る。 ・自己の能力に適した技を選び、技を繰り返したり組み合わせたりする。 ・課題の解決のために考えたことを伝える。 | 6 マット運動の自己の能力に適した技に挑戦する ・自己の能力に適した課題を解決するための活動を選んで、もう少しでできそうな技に挑戦する。 ・基本的な技に十分取り組んだ上で、それらの発展技にも取り組む。 ・課題の解決のために考えたことを伝える。 | | | | | | | |
| | 3橋や器械・器具の準備をする | | | | | | | | | | |
| | 4準備運動、主運動につながる運動をする | | | | | | | | | | |
| | 5基本的な技をする | 6 マット運動の新しい技に挑戦する ・基本的な技の行い方を知る。 【回転系はね起きグループ】 ・首はね起き | | | | | | | | | |
| | 6本時を振り返り、次時への見通しをもつ | 自己の能力に適した練習の場を選んで行う。 ・気付いたことや考えたことを友達と伝え合う。 | | | | | | | | | |
| | 7片付け | | | | | | 7 単元の振り返り | | | | |
| | 8挨拶 | 7 本時を振り返り、次時への見通しをもつ 8 片付け 9 挨拶 | | | | | 8 片付け | | | | |
| | 9挨拶 | | | | | | 9 挨拶 | | | | |
| | 45 | | | | | | | | | | |
| 評 価 の 実 施 点 | 知識・技能 | | ① 観察・カード | | | | ② 観察 | | | | |
| | 思考・判断・表現 | | | | ① 観察・カード | ② 観察・カード | | | | | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ⑤ 観察 | ③ 観察 | ② 観察・カード | ④ 観察・カード | | ① 観察・カード | | | | |

【参考】 ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所
・小学校体育(運動領域)指導の手引 楽しく身に付く体育の授業 スポーツ庁

本時の目標
「単元の目標」「学習活動における具体の評価規準」との整合性

6 本時(/ 時)

(1) 標 ※本時の具体的目標を書く。文末は「～できる。」
「単元の目標」「学習活動における具体の評価規準」との整合性を図る。

(2) 展開

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学習活動における 具体の評価規準 | 評価方法 |
|----|---------------------|--|--|---------------|
| 5 | 1 ※児童の活動 「～する。」等 | ○ ※教師が特に配慮する点や手立てについて記入する。 ※資料・教具などの活用に関する留意点などを記入する。 | ○ ※「おおむね満足できる」状況(B)を国立教育政策研究所参考資料「内容のまとめりごとの評価規準(例)」から導き出し、具体的に記述する。 ※「本時の目標」「単元の評価規準」との整合性を図る。 | 観察 振り返りカード |
| 5 | 2 | ○ 「～伝える。」 「～支援する。」 「～称賛する。」等 | | |
| 15 | 3 | ○ | | |
| 15 | 4 | ○ ※一人一台端末等を活用する 場面を太枠で囲む。 | | |
| 5 | 5 | ○ | | |

(3) 評価及び指導の例

| | |
|-----------------------------|---|
| 「十分満足できる」と判断される状況 | ・※「おおむね満足できる」状況(B)を実現した児童が、更に質的な高まりや深まりをもって いる姿(A)を具体的に想定して記述する。 |
| 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導 | ・※指導の手立てを、具体的に想定して記述する。 |

各領域の内容（運動の特性）

各領域の内容とねらいは、次のとおりである。

（1）運動領域の内容

運動領域の内容とねらいは、次のとおりである。

ア 体づくり運動系

体づくり運動系は、体を動かす楽しさや心地よさを味わい運動好きになるとともに、心と体との関係に気付いたり、仲間と交流したりすることや、様々な基本的な体の動きを身に付けたり、体の動きを高めたりして、体力を高めるために行われる運動である。

体づくり運動系の領域として、低学年を「体づくりの運動遊び」、中・高学年を「体づくり運動」で構成している。

「体づくりの運動遊び」については、「体はぐしの運動遊び」及び「多様な動きをつくる運動遊び」で構成し、「体づくり運動」については、中学年を「体はぐしの運動」及び「多様な動きをつくる運動」で、高学年を「体はぐしの運動」及び「体の動きを高める運動」で構成している。

低・中学年においては、発達の段階から体力を高めることを学習の直接の目的とすることは難しいが、将来の体力の向上につなげていくためには、この時期に様々な基本的な体の動きを培っておくことが重要である。そのため、「多様な動きをつくる運動（遊び）」では、体づくり運動以外の各領域において扱いにくい様々な基本的な体の動きを培う運動（遊び）を示している。

低学年は「体づくりの運動遊び」とし、その内容も全て「運動遊び」として示している。これは、児童が易しい運動に出会い、伸び伸びと体を動かす楽しさや心地よさを味わう遊びであることを強調したもので、以下の各領域においても同様の趣旨である。これは、入学後の児童が就学前の運動遊びの経験を引き継ぎ、小学校での様々な運動遊びに親しむことをねらいとしている。

全ての学年において指導する「体はぐしの運動（遊び）」では、自己の心と体との関係に気付くことと仲間と交流することをねらいとし、誰もが楽しめる手軽な運動（遊び）を通して運動好きになることを目指している。そのため、発達の段階に応じて、運動（遊び）を通して自己や仲間の心と体に向き合って運動（遊び）に取り組み、心と体が関係し合っていることに気付くとともに、仲間と関わる楽しさを体験し、仲間のよさを認め合うことができるようにする。なお、従前に示されていた「体の調子を整えること」については、心と体を軽やかにしたりストレスを軽減したりすることなどが、運動（遊び）を楽し

1
教科の目標
及び内容

体づくり運動系は、体を動かす楽しさや心地よさを味わい運動好きになるとともに、心と体の関係に気付いたり、仲間と交流したりすることや、様々な基本的な体の動きを身に付けたり、体の動きを高めたりして、体力を高めるために行われる運動

各領域の内容（運動の特性）

変化や心と体との関係に気付いたり、みんなで関わり合ったりすることが主なねらいであり、「多様な動きをつくる運動（遊び）」及び「体の動きを高める運動」は、体の様々な動きを身に付けたり高めたりすることが主なねらいであり、それぞれが特定の技能を示すものではないことから、従前どおり「技能」ではなく「運動」として示す。

イ 器械運動系

器械運動系は、「回転」、「支持」、「懸垂」等の運動で構成され、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

器械運動系の領域として、低学年を「器械・器具を使つての運動遊び」、中・高学年を「器械運動」で構成している。

器械・器具を使つての運動遊びは、「固定施設を使った運動遊び」、「マットを使った運動遊び」、「鉄棒を使った運動遊び」及び「跳び箱を使った運動遊び」で内容を構成している。これらの運動遊びは、様々な動きに楽しく取り組み、基本的な動きや知識を身に付けたときに喜びに触れ、その行い方を知ることのできる運動遊びである。

器械・器具を使つての運動遊びの学習指導では、それぞれの器械・器具の条件の下で、回転、支持、逆さの姿勢、ぶら下がり、振動、手足での移動などの基本的な動きができるようになったり、遊び方を工夫したり、これらを友達に伝えたりすることが課題になる。また、児童がそれぞれの器械・器具を使った多様な動き方や遊び方を考えることができるように図で掲示したり、集団で取り組める遊びを工夫したり、児童が創意工夫した動きを評価したりすることが必要である。さらに、器械運動と関連の深い動きを、意図的に取り入れることにより、基礎となる体の動かし方や感覚を身に付けることが大切である。

器械運動は、中・高学年ともに「マット運動」、「鉄棒運動」及び「跳び箱運動」で内容を構成している。これらの運動は、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びに触れたり、味わったりすることができる運動である。また、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びも味わうことができる。マット運動は回転系（接転技群：前転・後転グループ技、はん転技群：倒立回転・はね起きグループ技）と巧技系（平均立ち技群：倒立グループ技）を、鉄棒運動は支持系（前方支持回転技群：前転・前方足掛け回転グループ技、後方支持回転技群：後転・後方足掛け回転グループ技）を、跳び箱運動は切り返し系（切り返し跳びグループ技）と回転系（回転跳びグループ技）を取り上げている。なお、技の分類については、発達の段階及び中学校との連携を考慮し、

1
教科の目標
及び内容

器械運動系は、「回転」、「支持」、「懸垂」等の運動で構成され、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編 p 27

各領域の内容（運動の特性）

第2章 体育科の目 録及び内容

児童が学びやすくなるように配慮した。

器械運動の学習指導では、低学年の「固定施設を使った運動遊び」、「マットを使った運動遊び」、「鉄棒を使った運動遊び」及び「跳び箱を使った運動遊び」で経験して身に付けた体の動かし方や運動感覚を、中・高学年の「マット運動」、「鉄棒運動」及び「跳び箱運動」の技の学習に生かすように学習過程を進めることが大切である。加えて、それぞれの運動に集団で取り組み、一人一人ができる技を組み合わせ、調子を合わせて演技する活動を取り入れることもできる。

器械運動は、「できる」、「できない」がはっきりした運動であることから、全ての児童が技を身に付ける楽しさや喜びを味わうことができるよう、自己やグループの課題を見つけ、その課題の解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることができるようにすることが大切である。

また、運動を楽しく行うために、一人一人が自己の課題の解決のために積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにすることが求められる。

ウ 陸上運動系

陸上運動系は、「走る」、「跳ぶ」などの運動で構成され、自己の能力に適した課題や記録に挑戦したり、競走（争）したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

陸上運動系の領域として、低学年を「走・跳の運動遊び」、中学年を「走・跳の運動」、高学年を「陸上運動」で構成している。

走・跳の運動遊びは、「走の運動遊び」及び「跳の運動遊び」で、走・跳の運動は、「かけっこ・リレー」、「小型ハードル走」、「幅跳び」及び「高跳び」で内容を構成している。これらの運動（遊び）は、走る・跳ぶなどについて、友達と競い合う楽しさや、調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができ、また、体を巧みに操作しながら走る、跳ぶなどの様々な動きを身に付けることを含んでいる運動（遊び）である。

走・跳の運動遊び及び走・跳の運動の学習指導では、走ったり跳んだりする動き自体の面白さや心地よさを引き出す指導を基本にしながら、体力や技能の程度にかかわらず競走（争）に勝つことができたり、勝敗を受け入れたりするなどして、意欲的に運動（遊び）に取り組むことができるように、楽しい活動の仕方や場を工夫することが大切である。

陸上運動は、「短距離走・リレー」、「ハードル走」、「走り幅跳び」及び「走り高跳び」で内容を構成している。これらの運動は、走る、跳ぶなどの運動

陸上運動系は、「走る」、「跳ぶ」などの運動で構成され、自己の能力に適した課題や記録に挑戦したり、競走（争）したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編 p 28

各領域の内容（運動の特性）

で、体を巧みに操作しながら、合理的で心地よい動きを身に付けるとともに、仲間と速さや高さ、距離を競い合ったり、自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

陸上運動の学習指導では、合理的な運動の行い方を大切にしながら競走（争）や記録の達成を目指す学習活動が中心となるが、競走（争）では勝敗が伴うことから、できるだけ多くの児童に勝つ機会が与えられるように指導を工夫するとともに、その結果を受け入れることができるよう指導することが大切である。一方、記録を達成する学習活動では、自己の能力に適した課題をもち、適切な運動の行い方を知り、記録を高めることができるようにすることが大切である。

また、陸上運動系の領域では、最後まで全力で走ることや思い切り地面を蹴って踏み切るなど、体全体を大きく、素早く、力強く動かす経験をすることができるようになることも大切である。

なお、児童の投能力の低下傾向が引き続き深刻な現状にあることに鑑み、遠投能力の向上を意図し、「内容の取扱い」に「投の運動（遊び）」を加えて指導することができることにした。遠くに力一杯投げることには指導の主眼を置き、投の粗形態の獲得とそれを用いた遠投能力の向上を図ることが主な指導内容となる。

エ 水泳運動系

水泳運動系は、水の中という特殊な環境での活動におけるその物理的な特性（浮力、水圧、抗力・揚力など）を生かし、浮く、呼吸する、進むなどの課題を達成し、水に親しむ楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

水泳運動系の領域として、低学年を「水遊び」、中・高学年を「水泳運動」で構成している。

水遊びは、「水の中を移動する運動遊び」及び「もぐる・浮く運動遊び」で内容を構成している。これらの運動遊びは、水中を動き回ったり、もぐったり、浮いたりする心地よさを楽しむ運動遊びである。それぞれの児童の能力にふさわしい課題に挑み、活動を通して水の中での運動の特性について知り、水に慣れ親しむことで、課題を達成する楽しさに触れることができる運動遊びである。

水遊びの学習指導では、水に対する不安感を取り除く簡単な遊び方を工夫することで学習を進めながら、水の中での運動遊びの楽しさや心地よさを味わうことができるようにすることが大切である。そうした指導を通して、技能面では、水にもぐることや浮くこと、息を止めたり吐いたりすることを身に付けることが重要な課題となる。

1
教科の目標
及び内容

水泳運動系は、水という特殊な環境での活動における物理的な特性（浮力、水圧、抗力、揚力など）を生かし、浮く、呼吸する、進むなどの課題を達成し、水に親しむ楽しさや喜びを味わうことのできる運動

各領域の内容（運動の特性）

第2章 体育科の目 録及び内容

水泳運動は、中学年を「浮いて進む運動」及び「もぐる・浮く運動」で、高学年を「クロール」、「平泳ぎ」及び「安全確保につながる運動」で内容構成している。これらの運動は、安定した呼吸を伴うことで、心地よく泳いだり、泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、記録を達成したりすることに繋がり、楽しさや喜びに触れたり味わったりすることができる運動である。そのためには、水遊びで水に慣れ親しむことや、もぐる・浮くなどの経験を通して、十分に呼吸の仕方を身に付けておくことが大切である。「安全確保につながる運動」は、そのような安定した呼吸の獲得を意図した運動である。

水泳運動の学習指導では、児童一人一人が自己やグループの能力に応じた課題をもち、その解決の方法を工夫し、互いに協力して学習を進めながら、水泳運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにすることが大切である。とりわけ技能面では、手や足の動きに呼吸を合わせながら泳ぐことや、背浮きや浮き沈みをしながら安定した呼吸を伴い泳ぐことが重要な課題となる。

なお、泳法の指導に合わせ、け伸びから泳ぎにつなげる水中からのスタートを指導する。また、より現実的な安全確保につながる運動の経験として、着衣をしたままでの水泳運動を指導に取り入れることも大切である。さらに、水泳運動の楽しさを広げる観点から、集団でのリズム水泳などを指導に取り入れることもできる。

水泳運動系は生命にかかわることから、水泳場の確保が困難で水泳運動系を扱えない場合でも、水遊びや水泳運動などの心得については必ず指導することが大切であり、そのことを「指導計画の作成と内容の取扱い」に示した。また、水中で目を開ける指導を行った場合には、事後に適切な対応をすることも大切である。

オ ボール運動系

ボール運動系は、競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる運動である。

ボール運動系の領域として、低・中学年を「ゲーム」、高学年を「ボール運動」で構成している。

ゲームは、低学年を「ボールゲーム」及び「鬼遊び」で、中学年を「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」で内容構成している。これらの運動（遊び）は、主として集団対集団で、得点を取るために友達と協力して攻めたり、得点されないように友達と協力して守ったりしながら、競い合う楽しさや喜びに触れることができる運動（遊び）である。また、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことができる運動（遊び）である。

ボール運動系は、競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる運動

ゲーム…主として集団対集団で、**得点を取るために友達と協力して攻めたり、得点されないように友達と協力して守ったりしながら、競い合う楽しさや喜びに触れることができる運動（遊び）**

基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことができる運動（遊び）

ボール運動…ルールや作戦を工夫し、集団対集団の**攻防によって仲間と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができる運動**

型に応じたボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりする

各領域の内容（運動の特性）

ゲームの学習指導では、友達と協力してゲームを楽しむ工夫や楽しいゲームをつくり上げることが、児童にとって重要な課題となってくる。集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり作戦を選んだりすることを重視しながら、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを一層楽しめるようにすることが学習の中心となる。また、公正に行動する態度、特に勝敗をめぐって正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。

ボール運動は、「ゴール型」、「ネット型」及び「ベースボール型」で内容を構成している。これらの運動は、ルールや作戦を工夫し、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

ボール運動の学習指導では、互いに協力し、役割を分担して練習を行い、型に応じたボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心となる。また、ルールやマナーを守り、仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することができるようにすることが大切である。

中学年のゲームと高学年のボール運動では、「ゴール型」、「ネット型」及び「ベースボール型」の三つの型で内容を構成している。ゴール型は、コート内で攻守が入り交じり、ボール操作とボールを持たないときの動きによって攻防を組み立てたり、陣地を取り合って得点しやすい空間に侵入し、一定時間内に得点を競い合うこと、ネット型は、ネットで区切られたコートの中でボール操作とボールを持たないときの動きによって攻防を組み立てたり、相手コートに向かって片手、両手もしくは用具を使ってボールなどを返球したりして、一定の得点に早く達することを競い合うこと、ベースボール型は、攻守を規則的に交代し合い、ボール操作とボールを持たないときの動きによって一定の回数内で得点を競い合うことを課題としたゲームである。

なお、これらの領域における技能は、「ボール操作」及び「ボールを持たないときの動き」で構成している。「ボール操作」はシュート・パス・キープ（ゴール型）、サービス・パス・返球（ネット型）、打球・捕球・送球（ベースボール型）など、攻防のためにボールを操作する技能である。「ボールを持たないときの動き」は、空間・ボールの落下点・目標（区域や塁など）に走り込む、味方をサポートする、相手のプレイヤーをマークするなど、ボール操作に至るための動きや守備の動きに関する技能である。ゲームではこれらの技能をいつ、どのように発揮するかを適切に判断することが大切になる。

1
教科の目標
及び内容

ゴール型…コート内で攻守が入り交じり、ボール操作とボールを持たないときの動きによって攻防を組み立てたり、陣地を取り合って得点しやすい空間に侵入し、一定時間内に得点を競い合うこと

ネット型…ネットで区切られたコートの中でボール操作とボールを持たないときの動きによって攻防を組み立てたり、相手コートに向かって片手、両手もしくは用具を使ってボールを返球したりして、一定の得点に早く達することを競い合うこと

ベースボール型…攻守を規則的に交代し合い、ボール操作とボールを持たないときの動きによって一定の回数内で得点を競い合うこと

各領域の内容（運動の特性）

第2章 体育科の目 標及び内容

カ 表現運動系

表現運動系は、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ったり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

表現運動系の領域として、低学年を「表現リズム遊び」、中・高学年を「表現運動」で構成している。

表現リズム遊びは、「表現遊び」及び「リズム遊び」で内容を構成している。これらの運動遊びは、身近な動物や乗り物などの題材の特徴を捉え、そのものになりきって全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びである。また、友達と様々な動きを見付けて踊ったり、みんなで調子を合わせて踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びである。

なお、「リズム遊び」には、中学年の「リズムダンス」と高学年の「フォークダンス」へのつながりを考慮して、簡単なフォークダンスを軽快なリズムに乗って踊る内容に含めて指導することができることを「内容の取扱い」に示した。

表現リズム遊びの学習指導では、「表現遊び」と「リズム遊び」の両方の運動遊びを豊かに体験する中で、中学年から表現運動につながる即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力などを培えるようにする。そのためには、児童にとって身近で関心が高く、具体的で特徴のある動きを多く含む題材や弾んで踊れる軽快なリズムの音楽を取り上げるようにし、1時間の学習の中に「表現遊び」と「リズム遊び」の二つの内容を組み合わせたり関連をもたせたりするなど、様々なものになりきりやすく、律動的な活動を好む低学年の児童の特性を生かした学習指導の進め方を工夫することが大切である。

表現運動は、中学年を「表現」及び「リズムダンス」で、高学年を「表現」及び「フォークダンス」で内容を構成している。これらの運動は、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

中・高学年の「表現」は、身近な生活などから題材を選んで表したいイメージや思いを表現するのが楽しい運動であり、中学年の「リズムダンス」は、軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って友達と関わって踊ることが楽しい運動である。これらの「表現」と「リズムダンス」は、内容は異なるものの、学習の進め方としては、いずれも自由に動きを工夫して楽しむ創造的な学習を進

表現運動系は、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ったり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編 p 32

各領域の内容（保健）

められるところに共通の特徴がある。高学年の「フォークダンス」は、日本各地域の民謡と外国のフォークダンスで構成され、日本の地域や世界の国々で親しまれてきた踊りを身に付けてみんなで一緒に踊ることが楽しい運動であり、特定の踊り方を再現して踊る学習が進められるところが特徴である。

表現運動の学習指導では、児童一人一人がこれらの踊りの楽しさや喜びに十分に触れることがねらいとなる。そのためには、児童の今もっている力やその違いを生かせる題材や音楽を選ぶとともに、多様な活動や場を工夫して、一人一人の課題の解決に向けた創意工夫ができるようにすることが大切である。特に中学年では、題材の特徴を捉えた多様な感じを表現することと全身でリズムに乗って踊ることを通して、仲間と関わり合いながら即興的に踊る経験を大切にし、高学年では、個人やグループの持ち味を生かした題材の選択や簡単なひとまとまりの表現への発展など、個の違いの広がりに対応した進め方をすることが大切である。また、「表現」に加え「フォークダンス」の学習を通して地域や世界の文化に触れることも大切である。

なお、「表現」における技能では、「ひと流れの動きで即興的に踊ること」と「簡単なひとまとまりの動きにして踊ること」が大切である。「ひと流れの動きで即興的に踊ること」とは、題材から捉えた動きを基に、表したい感じを中心として動きを誇張したり、変化を付けたりして、メリハリ（緩急・強弱）のある「ひと流れの動き」にして表現することである。「簡単なひとまとまりの動きにして踊ること」とは、表したいイメージを変化と起伏のある「はじめーなかーおわり」の構成を工夫して表現することを示している。

キ 集団行動

各教科、特別活動等の教育活動及び日常の緊急時等では、集団が一つの単位となって、秩序正しく、能率的に、安全に行動することが求められることが多い。したがって、児童がそれぞれの活動の場にあそびたい集団としての行動様式を身に付けておくことが望まれる。

体育の授業における運動領域の学習では、学級単位あるいは学級を幾つかに分けた小集団で行われることが多く、そこでの活動を円滑に行うには、児童が学級単位あるいは小集団で、秩序正しく、能率的に行動するために必要な基本的なものを身に付けておくことが大切である。

(2) 保健領域の内容

保健領域の内容とねらいは、次のとおりである。

ア 健康な生活

健康な生活については、健康の大切さを認識するとともに、家庭や学校にお

1
教科の目標
及び内容

第2章
体育科の目
標及び内容

ける毎日の生活に関心をもち、健康によい生活を送ることに努めて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること、健康に過ごすには、1日の生活の仕方が深く関わっていること、生活環境を整えることが必要であることなどの知識と健康な生活についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

イ 体の発育・発達

体の発育・発達については、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化などについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、体は年齢に伴って変化すること、思春期になると体に変化が起ること、体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることなどの知識と体の発育・発達についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

ウ 心の健康

心の健康については、心は年齢とともに発達すること及び心と体には密接な関係があることについて理解できるようにすること及び、不安や悩みへの対処について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、心はいろいろな生活経験を通して年齢に伴って発達すること、また、心と体とは密接に関係していること、さらに、不安や悩みへの対処にはいろいろな方法があることなどの知識及び不安や悩みへの対処の技能と、心の健康についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

エ けがの防止

けがの防止については、けがが発生する原因や防止の方法について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにすることをねらいとしている。

このため、本内容は、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがなどを取り上げ、けがの起こり方とその防止、さらには、けがの手当を速やかに行う必要があることなどの知識及び簡単なけがの手当の技能と、けが

健康な生活については、健康な生活の大切さを認識するとともに、家庭や学校における関心をもち、健康によい生活を送ることに努めて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにする

各領域の内容（保健）

第2章 体育科の目 標及び内容

ける毎日の生活に関心をもち、健康により生活を続けることについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること、健康に過ごすには、1日の生活の仕方が深く関わっていること、生活環境を整えることが必要であることなどの知識と健康な生活についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

イ 体の発育・発達

体の発育・発達については、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化などについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、体は年齢に伴って変化すること、思春期になると体に変化が起ること、体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることなどの知識と体の発育・発達についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

ウ 心の健康

心の健康については、心は年齢とともに発達すること及び心と体には密接な関係があることについて理解できるようにすること及び、不安や悩みへの対処について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、心はいろいろな生活経験を通して年齢に伴って発達すること、また、心と体とは密接に関係していること、さらに、不安や悩みへの対処にはいろいろな方法があることなどの知識及び不安や悩みへの対処の技能と、心の健康についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

エ けがの防止

けがの防止については、けがが発生する原因や防止の方法について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにすることをねらいとしている。

このため、本内容は、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがなどを取り上げ、けがの起こり方とその防止、さらには、けがの手当を速やかに行う必要があることなどの知識及び簡単なけがの手当の技能と、けが

体の発育・発達については、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化などについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにする

各領域の内容（保健）

第2章 体育科の目 録及び内容

ける毎日の生活に関心をもち、健康により生活が続けることについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること、健康に過ごすには、1日の生活の仕方が深く関わっていること、生活環境を整えることが必要であることなどの知識と健康な生活についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

イ 体の発育・発達

体の発育・発達については、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化などについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、体は年齢に伴って変化すること、思春期になると体に変化が起こること、体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることなどの知識と体の発育・発達についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

ウ 心の健康

心の健康については、心は年齢とともに発達すること及び心と体には密接な関係があることについて理解できるようにすること及び、不安や悩みへの対処について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、心はいろいろな生活経験を通して年齢に伴って発達すること、また、心と体とは密接に関係していること、さらに、不安や悩みへの対処にはいろいろな方法があることなどの知識及び不安や悩みへの対処の技能と、心の健康についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

エ けがの防止

けがの防止については、けがが発生する原因や防止の方法について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにすることをねらいとしている。

このため、本内容は、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがなどを取り上げ、けがの起こり方とその防止、さらには、けがの手当を速やかに行う必要があることなどの知識及び簡単なけがの手当の技能と、けが

心の健康については、心は年齢とともに発達すること及び心と体には密接な関係があることについて理解できるようにすること及び、不安や悩みへの対処について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、それらを表現したりできるようにする

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編 p 34

各領域の内容（保健）

第2章 体育科の目 標及び内容

ける毎日の生活に関心をもち、健康により生活が続けることについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること、健康に過ごすには、1日の生活の仕方が深く関わっていること、生活環境を整えることが必要であることなどの知識と健康な生活についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

イ 体の発育・発達

体の発育・発達については、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化などについて課題を見付け、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考え、それを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、体は年齢に伴って変化すること、思春期になると体に変化が起ること、体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることなどの知識と体の発育・発達についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

ウ 心の健康

心の健康については、心は年齢とともに発達すること及び心と体には密接な関係があることについて理解できるようにすること及び、不安や悩みへの対処について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、心はいろいろな生活経験を通して年齢に伴って発達すること、また、心と体とは密接に関係していること、さらに、不安や悩みへの対処にはいろいろな方法があることなどの知識及び不安や悩みへの対処の技能と、心の健康についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

エ けがの防止

けがの防止については、けがが発生する原因や防止の方法について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにすることがねらいとしている。

このため、本内容は、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがなどを取り上げ、けがの起こり方とその防止、さらには、けがの手当を速やかに行う必要があることなどの知識及び簡単なけがの手当の技能と、けが

けがの防止については、けがが発生する原因や防止の方法について課題を見付け、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともに、それらを表現したりできるようにする

各領域の内容（保健）

の防止についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

オ 病気の予防

病気の予防については、病気の発生要因や予防の方法、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響などについて課題を見付け、それらの解決を目指して知識を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともにそれらを表現したりできるようにすることがねらいである。

このため、本内容は、主として病原体が主な要因となって起こる病気と生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体を体の中に入れないことや病原体に対する体の抵抗力を高めること及び望ましい生活習慣を身に付けることが必要であること、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること、地域において保健に関わる様々な活動が行われていることなどの知識と病気の予防についての思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

1
教科の目標
及び内容

病気の防止については、病気の発生要因や予防の方法、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響などについて課題を見付け、それらの解決を目指して知識を習得したり、解決の方法を考え、判断するとともにそれらを表現したりできるようにする

各領域の内容（運動の特性）

体育科の学習であるのでまずはその領域がどのような**運動**なのかの**特性**を指導者が理解しておく必要がある。

また、その特性も低・中・高で違いがあるため、**その学年における特性**を確認しておく。

それを学習指導案の「2 単元について」の「教材観」として表現する。

高学年ボール運動の特性の捉え方（ゴール型）

例えば…

E ボール運動

高学年のボール運動は、「ゴール型」、「ネット型」及び「ベースボール型」で構成され、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

低学年と中学年のゲームの学習を踏まえ、高学年では、集団対集団の攻防によって競争する楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにし、中学校の球技の学習につなげていくことが求められる。

また、運動を楽しく行うために、自己やチームの課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、ルールを守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることなどができるようにすることが大切である。

簡易化されたゲームとは？

どのようなことをするのか…

ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをする

どのような運動なのか…

集団対集団の攻防によって競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動

それらを合わせると…

ゴール型は、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをして、集団対集団の攻防によって競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動

ボール運動：易しいゲームと簡易化されたゲーム

易しいゲーム（中学年）

ゲームを児童の発達の段階を踏まえて、**基本的なボール操作**で行え、プレイヤーの人数（プレイヤーの人数を少なくしたり、**攻める側**のプレイヤーの人数が**守る側**のプレイヤーの人数を上回るようにしたりすること）、コート of 広さ（奥行きや横幅など）、ネットの高さ、塁間の距離、プレイ上の**緩和や制限**（**攻める側のプレイ空間、触球方法の緩和や守る側のプレイ空間、身体接触の回避、触球方法の制限**など）、ボールその他の運動用具や設備などを修正し、児童が取り組みやすいように工夫したゲーム

簡易化されたゲーム（高学年）

ルールや形式が一般化されたゲームを児童の発達の段階を踏まえ、**実態に応じたボール操作**で行うことができ、プレイヤーの人数（プレイヤーの人数を少なくしたり、**攻撃側**のプレイヤーの人数が**守備側**のプレイヤーの人数を上回るようにしたりすること）、コート of 広さ（奥行きや横幅など）、ネットの高さ、塁間の距離、プレイ上の**制限**（**攻撃や守備のプレイ空間、触球方法**など）、ボールその他の運動用具や設備などを修正し、児童が取り組みやすいように工夫したゲーム

基本研修指導案様式

体育科学習指導案

令和〇年〇月〇日 第〇校時

〇〇小学校 〇年 〇組 〇〇名

指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 (例)「体づくりの運動遊び」、「マット運動」、「サッカー」

2 単元について

(1)教材観 ※教材の特性、学習指導要領の教科等目標や学年の目標、年間指導計画等との関連 など

(2)児童観 ※児童の学習経験や実態、予想される児童の学習活動 など

(3)指導観 ※教材観や児童観を踏まえた上での指導のポイントや工夫 など

3 単元の目標 ※単元の目標は「～することができるようにする。」の文末表現で記述する。

(1)・・・【知識及び技能(体づくり運動系は運動)】

(2)・・・【思考力、判断力、表現力等】

(3)・・・【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準 ※評価規準の項目数は、必ずしもこのとおりではない。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| ①【知識について】 ※文末は「～について、言ったり書いたりしている。」 ※低学年は、文末を「～について、言ったり実際に動いたりしている。」としてもよい。 | ① ② ※文末は「～している。」 (例)「選んでいる。」 「伝えている。」など | ① ② ③ ④ ⑤ ※～しようとしている。」 健康・安全の文末は「～している。」 |
| ②【技能について】 ※文末は「～できる。」 | | |

- 1 単元名
- 2 単元について
- (教材観)・・・学習指導要領から教材の特性など
- (児童観)・・・児童の学習経験や実態、予想される児童の学習活動など
- (指導観)・・・指導のポイントや工夫
- 3 単元の目標
- 文末 ～することができるようにする。
- 4 単元の評価規準 (文末)
- 知 ～について、言ったり書いたりしている。
- 技 ～できる。
- 思・判・表 ～している。
- 主 ～しようとしている。
- 健康・安全の文末は～している。

高学年ボール運動の目標（知識及び技能）及び評価規準（知識・技能）

(1) 知識及び技能

(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをすること。

ア ゴール型では、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすること。

イ ネット型では、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすること。

ウ ベースボール型では、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすること。

ア ゴール型

ゴール型では、その行い方を理解するとともに、投げる、受ける、蹴る、止める、運ぶ、手渡すといったボール操作とボール保持者からボールを受けることのできる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによって、攻撃側にとって易しい状況の中でチームの作戦に基づいた位置取りをするなどの攻守入り交じった簡易化されたゲームや陣地を取り合う簡易化されたゲームをすること。

[例示]

- バスケットボール、サッカー、ハンドボールなどを基にした簡易化されたゲーム（攻守が入り交じって行うゴール型）
- タグラグビーやフライングフットボールなどを基にした簡易化されたゲーム（陣地を取り合うゴール型）

- ・ 近くにいるフリーの味方にパスを出すこと。
- ・ 相手に捕られない位置でドリブルをすること。
- ・ ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動すること。
- ・ 得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすること。
- ・ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすること。

◎ 運動が苦手な児童への配慮の例

- ・ 得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどをすることが苦手な児童には、シュートが入りやすい場所に目印を付けたり、ボールを保持した際に最初にゴールを見ることを助言したりするなどの配慮をする。
- ・ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることが苦手な児童には、仲間がゴールの位置を教えるようにするなどの配慮をする。

2
第5学年及
び第6学年
の内容

目標であれば

・ ゴール型の行い方について理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。

評価規準であれば

・ ゴール型の行い方について、言ったり書いたりしている。

・ 味方にパスをする、パスを受けてシュートをするといったボール操作によってゲームをすることができる。

・ ボール保持者からボールを受けることのできる場所に動くなどのボールを持たないときの動きによってゲームをすることができる。

これらが知識及び技能における学習内容である。単元の目標や評価規準作成に活用する。

高学年ボール運動の目標（思考力、判断力、表現力等）及び評価規準（思考・判断・表現）

(2) 思考力、判断力、表現力等

(2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

ア ルールを工夫すること

- 誰もが楽しくゲームに参加できるように、プレイヤーの人数、コート of 広さ、プレイの制限、得点の仕方などのルールを選ぶ例
 - ・ 攻守に応じて動くことができる範囲を設けてプレイの制限をするなどのルールを選ぶこと。

イ 自己やチームの特徴に応じた作戦を選ぶこと

- 自己やチームの特徴を確認して作戦を選ぶ例
 - ・ チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認すること。

ウ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えること

- 味方が受けやすいようにボールをつなぐことについて考えたことを他者に伝える例
 - ・ 簡易化されたネット型のゲームで、自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT 機器を用いて記録した動画などを使って、他者に伝えること。
- 守備の隊形について工夫したことを他者に伝える例
 - ・ 簡易化されたベースボール型のゲームで、自チームや相手チームの守備位置のよさについて、動作や言葉、絵図、ICT 機器を用いて記録した動画などを使って、他者に伝えること。

目標であれば

- ・ ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

評価規準であれば

- ・ ルールを工夫している。
- ・ 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。
- ・ 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

これらが思考力、判断力、表現力等における学習内容である。単元の目標や評価規準作成に活用する。

高学年ボール運動の目標（学びに向かう力、人間性等）及び評価規準（主体的に学習に取り組む態度）

(3) 学びに向かう力、人間性等

(3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。

ア ゴール型、ネット型、ベースボール型の簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組むこと。

イ ルールやマナーを守り、仲間と助け合うこと。

ウ ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たすこと。

エ ゲームの勝敗を受け入れること。

オ ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めること。

カ ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配ること。

片付けや分担された責任を果たすことは、責任、健康・安全として指導内容に記載されており、目標には明記されていない。目標の「場や用具の安全に気を配ること」に含まれている。言われたから片付けたではなく、自分で考え判断し行動することを目指しているので、学習内容には記載されているが、目標には明記されていない。（包括されているイメージ）

目標であれば

- ・ ゴール型に積極的に取り組み、ルールを守り仲間と助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようになる。

評価規準であれば

- ・ ゴール型に積極的に取り組もうとしている。
- ・ ルールを守り仲間と助け合おうとしている。
- ・ 場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。
- ・ 勝敗を受け入れようとしている。
- ・ 仲間の考えや取組を認めようとしている。
- ・ 場や用具の安全に気を配っている。

これらが学びに向かう力、人間性等における学習内容である。単元の目標や評価規準作成に活用する。

基本研修指導案様式

指導と評価の計画
○児童の意識の流れを想定しながら学習内容を設定する

5 指導と評価の計画(7時間) (例)第4学年 マット運動

・時間数、学習活動等に応じて、枠を加工して作成する。・帯でとっている口の中も、自分の授業に合わせて作成する。

| 時 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | | | |
|----|--|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|
| 0 | オリエンテーション 1挨拶 | 1準備 2挨拶 3準備運動、主運動につながる運動 | | | | | | | | | |
| | | 4 本時のめあてを確認する | | | | | | | | | |
| 15 | 2単元の見通しをもつ ・単元の目標と学習の進め方を知る。 ・学習のきまりを知る。 | 5 マット運動の自己のできる技に取り組む ・基本的な技の行い方を知る。 【回転系グループ】 ・前転・着払いでの開脚前転 ・後転・開脚後転 【回転系側立回転グループ】 ・補助側立ブリッジ ・側方側立回転 【可逆系側立グループ】 ・側倒立・膝倒立 自己の能力に適した技を選んで行う。 ・課題の解決のために考えたことを伝える。 | | 5 マット運動の自己のできる技を繰り返したり組み合わせたりする ・技を繰り返したり組み合わせたりする行い方を知る。 ・自己の能力に適した技を選び、技を繰り返したり組み合わせたりする。 ・課題の解決のために考えたことを伝える。 | | | | | | | |
| | 3棒や器械・器具の準備をする | | | | | | | | | | |
| | 4準備運動、主運動につながる運動をする | | | | | | | | | | |
| 30 | 5基本的な技をする | 6 マット運動の新しい技に挑戦する ・基本的な技の行い方を知る。 【回転系はね転ぎグループ】 ・首はね転ぎ ・自己の能力に適した練習の場を選んで行う。 ・気付いたことや考えたことを友達と伝え合う。 | | 6 マット運動の自己の能力に適した技に挑戦する ・自己の能力に適した課題を解決するための活動を選んで、もう少しできそうな技に挑戦する。 ・基本的な技に十分取り組んだ上で、それらの発展技にも取り組む。 ・課題の解決のために考えたことを伝える。 | | | | | | | |
| | 6本時を振り返り、次時への見通しをもつ | | | | | | | | | | |
| | 7片付け 8挨拶 | 7 本時を振り返り、次時への見通しをもつ 8 片付け 9 挨拶 | | | | | | | | | |
| 45 | | | | | | | | | | | |
| | | 7 単元振り返り 8 片付け 9 挨拶 | | | | | | | | | |

| 評価の重点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 学習態度 |
|-------|--------|----------|---------------|----------|
| ① | 観察・カード | | | ② 観察 |
| ② | | | ① 観察・カード | ② 観察・カード |
| ③ | ⑤ 観察 | ③ 観察 | ② 観察・カード | ④ 観察・カード |
| ④ | | | ② 観察・カード | ① 観察・カード |

【参考】 指導と評価の計画(7時間)のたの学習計画に関する参考資料 国立教育政策研究所
・小学校体育(運動領域)指導の手引 楽しく身に付く体育の授業 スポーツ庁

指導と評価の計画を立てる際に…
○学習内容を児童が楽しみながら身に付けるためには…
○すべての児童が運動の特性を味わうためには…
○すべての児童が自己やチームの課題を見付け、試行錯誤しながら課題を修正したり、新たな課題を見付けたりできるように…
○どんな場や用具、人数、制限であればみんなが取り組みやすいだろう…
○ゲームにつながる運動は何がいいだろう…
○協働的な活動で新たな課題を見つけさせたい…
○どの時間に何を評価すれば効果的なのだろう…

「十分満足できる姿」の設定例
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導例

例 目標 ボール保持者からボールを受けることのできる位置に動くなどのボールを持たないときの動きをすることができる。

| | |
|-----------------------------|--|
| 「十分満足できる」と判断される状況 | ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように素早く移動することができる。 |
| 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導 | 教師や仲間が守備者の動きを伝えたり、動く場所を教えたりするなど、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないようにする。 |

「十分満足できる姿（A）を設定する際の表現例」
～を根拠に 進んで 自ら 工夫して 適切に 一貫して
安定して 正確に 素早く 何度も ～に応じて
学びの質やプロセスの深さを見る

「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導を設定する際」
おおむね満足できる状況は、目標を達成している状況
何ができればOKなのかから逆算して、授業の中での具体的な支援（手立て）

本日の内容

- ・ 基本的な学習指導案の作り方、考え方
(学習指導要領：運動の特性、保健領域)
- ・ 系統性について (ボール運動系を中心に)
- ・ 授業者が課題と感じていること

ボール運動系の系統性について

Eボール運動系「知識及び技能」

(◇：ボール操作◆：ボールを持たないときの動き)

| | | 第1学年及び第2学年 | | 第3学年及び第4学年 | | 第5学年及び第6学年 |
|--------|--------|---|-----------------|--|---------|--|
| ボールゲーム | ボール操作 | ◇ねらったところに緩やかにボールを転がす、投げる、蹴る、的に当てる、得点する ◇相手コートに緩やかにボールを投げ入れたり、捕ったりする ◇ボールを捕ったり止めたりする | ボール操作 いときの動き | ◇味方へのボールの手渡し、パス、シュート、ゴールへのボールの持ち込み ◆ボール保持時に体をゴールに向ける ◆ボール保持者と自分の間に守備者がいないように移動 | ゴール型 | ◇近くにいるフリーの味方へのパス ◇相手に取られない位置でのドリブル ◇パスを受けてのシュート ◆ボール保持者と自分の間に守備者が入らない位置への移動 ◆得点しやすい場所への移動 ◆ボール保持者とゴールの間に体を入れた守備 |
| | いときの動き | ◆ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースへの移動 ◆ボールを操作できる位置への移動 | ボール操作 いときの動き | ◇いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具などではじいたり、打ちつけたりする ◇相手コートから返球されたボールの片手、両手、用具での返球 | ネット型 | ◇自陣のコート（中央付近）から相手コートへのサービス ◇味方が受けやすいようにボールをつなぐ ◇片手、両手、用具を使っての相手コートへの返球 |
| 鬼遊び | | ◆空いている場所を見つけて、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりする | ボールを持たないときの動き | ◆ボールの方向に体に向けること、もしくは、ボールの落下点や操作しやすい位置への移動 | | ◆ボールの方向に体に向けることとボール方向への素早い移動 |
| | | ◆相手（鬼）のいない場所への移動、駆け込み ◆少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり、走り抜けたりする | ボール操作 | ◇ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりする ◇投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げる | ベースボール型 | ◇止まったボール、易しいボールをフェアグラウンド内に打つ ◇打球の捕球 ◇捕球する相手に向かったの投球 |
| | | ◆逃げる相手を追いかけてタッチしたり、マーク（タグやフラッグ）を取ったりする | ボールを持たないときの動き | ◆向かってくるボールの正面への移動 ◆ベースに向かって全力で走り、駆け抜けること | | ◆打球方向への移動 ◆簡易化されたゲームにおける塁間の全力での走塁 ◆守備の隊形をとって得点を与えないようにする |

ボール運動系の系統性について

Eボール運動系「知識及び技能」

(◇：ボール操作◆：ボールを持たないときの動き)

| | 第1学年及び第2学年 | 第3学年及び第4学年 | 第5学年及び第6学年 |
|--------|--|--|---|
| ボール運動系 | <p>◇ねらったところに、緩やかにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして、的に当てたり、得点したりする</p> <p>◇相手コートに緩やかにボールを投げ入れたり、捕ったりする</p> <p>◇ボールを捕ったり止めたりする</p> <p>◆ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ること</p> <p>◆ボールを操作できる位置に動くこと</p> | <p>◇味方へのボールの手渡ししたり、パスを出したりシュートをしたり、ゴールにボールを持ち込んだりすること</p> <p>◆ボールを持ったときにゴールに体を向けること</p> <p>◆ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動すること</p> | <p>◇近くにいるフリーの味方にパスを出すこと</p> <p>◇相手に捕られない位置でのドリブルをすること</p> <p>◇パスを受けてシュートなどをすること</p> <p>◆ボール保持者と自己の間に守備者が入らない位置に移動すること</p> <p>◆得点しやすい場所に移動</p> <p>◆ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすること</p> |

ボール運動系の系統性について

Eボール運動系「思考力、判断力、表現力等」

| | 第1学年及び第2学年 | 第3学年及び第4学年 | 第5学年及び第6学年 |
|--------|---|--|--|
| ボール運動系 | <p>簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える</p> <p>工夫する</p> <p>選ぶ</p> <p>伝える</p> | <p>規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝える</p> <p>思考</p> <p>判断</p> <p>表現</p> | <p>ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える</p> |

ボール運動系の系統性について

Eボール運動系 「学びに向かう力、人間性等」

| | 第1学年及び第2学年 | 第3学年及び第4学年 | 第5学年及び第6学年 |
|--------|---|---|---|
| ボール運動系 | <ul style="list-style-type: none">・ 運動遊びに進んで取り組む・ 規則を守り誰とでも仲よく運動をする・ 勝敗を受け入れる・ 場や用具の安全に気を付ける | <ul style="list-style-type: none">・ 運動に進んで取り組む・ 規則を守り誰とでも仲よく運動をする・ 勝敗を受け入れる・ 友達の考えを認める・ 場や用具の安全に気を付ける | <ul style="list-style-type: none">・ 運動に積極的に取り組む・ ルールを守り助け合って運動をする・ 勝敗を受け入れる・ 仲間の考えや取組を認める・ 場や用具の安全に気を配る |

規則とルールの違い

規則・・・「きまり」に近い意味。みんなが楽しく、安全に運動を行うための最低限の約束事
(易しいゲーム)

ルール・・・一般的な競技（スポーツ）の公式規定をベースに、集団の課題解決や勝敗の公平性を保つための条件
(簡易化されたゲーム)

友達、仲間、他者の違い

友達・・・感情的なつながり。仲の良さや親近感をベースにした関係（運動の楽しさを共有し、仲良く活動すること）

仲間・・・共通の目的を持つ集団。好き嫌いに関わらず、目的のために協力し合う関係（チームやグループで課題を解決すること）

他者・・・自分以外のすべて。考え方の違いや多様性を意識する対象（自分とは異なる意見や背景を持つ存在を認め、合意形成すること）

進んで、積極的の違い

進んで・・・教師の指示や学習のルールを理解し、自ら取り組んでいる状態。義務感も含め、学習のルールに乗っている。

積極的・・・「進んで」に加え、目的意識がより強く、質が高い状態。課題解決のために自ら工夫したり、他者へ働きかけたりする。

安全に気を付ける、安全に気を配るの違い

安全に気を付ける … 「自己の安全」。自分が怪我をしないように、教えられたきまりを守って動くこと。教師に指示されたルールや、一般的なきまりを遵守する。

安全に気を配る … 「自他の安全・場の安全」。自分だけでなく、仲間や用具、周囲の状況まで視野を広げて配慮すること。状況を判断し、能動的に安全な環境を作ろうとする。

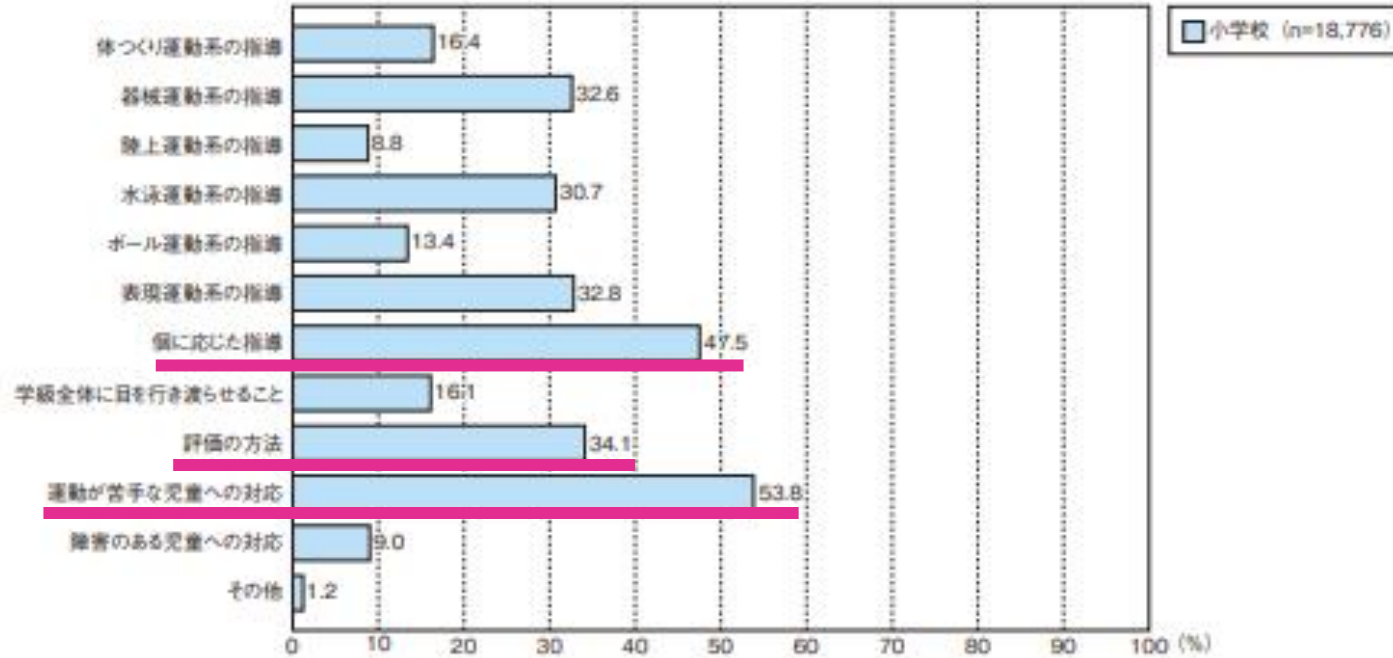
本日の内容

- ・ 基本的な学習指導案の作り方、考え方
(学習指導要領：運動の特性、保健領域)
- ・ 系統性について (ボール運動系を中心に)
- ・ 授業者が課題と感じていること

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等学校質問用紙の調査結果

質問13 (小学校)

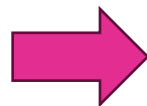
体育の授業で課題に感じていることを上位から3つ選んでください。



○運動が苦手な児童への対応 53.8%

○個に応じた指導 47.5%

○評価の方法 34.1%



○活動の場や用具、補助の仕方に配慮
困難さに応じた手立て

○自己の能力に適した課題の設定

ICT・学習形態の活用、ルールの弾力化

○指導と評価の一体化 振り返りシート
ICTの活用

指導計画の作成

(6) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

運動領域の指導に当たっては、当該児童の運動（遊び）の行い方を工夫するとともに、活動の場や用具、補助の仕方に配慮するなど、困難さに応じた手立てを講じることが大切である。

複雑な動きをしたり、バランスを取ったりすることへの困難がある場合には、極度の不器用さや動きを組み立てることへの苦手があることが考えられることから、動きを細分化して指導したり、適切に補助をしながら行ったりするなどの配慮をする。

場や用具・指導方法の工夫

2 内容の取扱い

(1) 学校や地域の実態を考慮するとともに、
個々の児童の運動経験や技能の程度などに応じた
指導や児童自らが運動の課題の解決を目指す活動
を行えるよう工夫すること。特に、運動を苦手と
感じている児童や、運動に意欲的に取り組まない
児童への指導を工夫するとともに、障害のある児
童などへの指導の際には、周りの児童が様々な特
性を尊重するよう指導すること。

指導方法の工夫

2 内容の取扱い

例：第5学年及び第6学年の内容

体づくり運動…自己の課題をもち

器械運動…自己の能力に適した～の技

陸上運動…自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指す

水泳運動…泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、記録を達成したり

ボール運動…自己やチームの課題を見付け

表現運動…自己やグループの課題を見付け

保健…心の健康に関する課題を見付け

適切な課題の設定

平成29年度改訂学習指導要領における各教科の学習評価

各教科の学習評価においては、平成29年改訂においても、学習状況を分析的に捉える「**観点別評価**」と、これらを総括的に捉える「**評定**」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされた。改善等通知では、以下のように示されている。

【小学校児童指導要録】

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B

「努力を要する」状況と判断されるもの：C

のように区別して評価を記入する。

II 評定（第3学年以上）

各教科の評定は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を、

「十分満足できる」状況と判断されるもの：3

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：2

「努力を要する」状況と判断されるもの：1

のように区別して評価を記入する。

評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

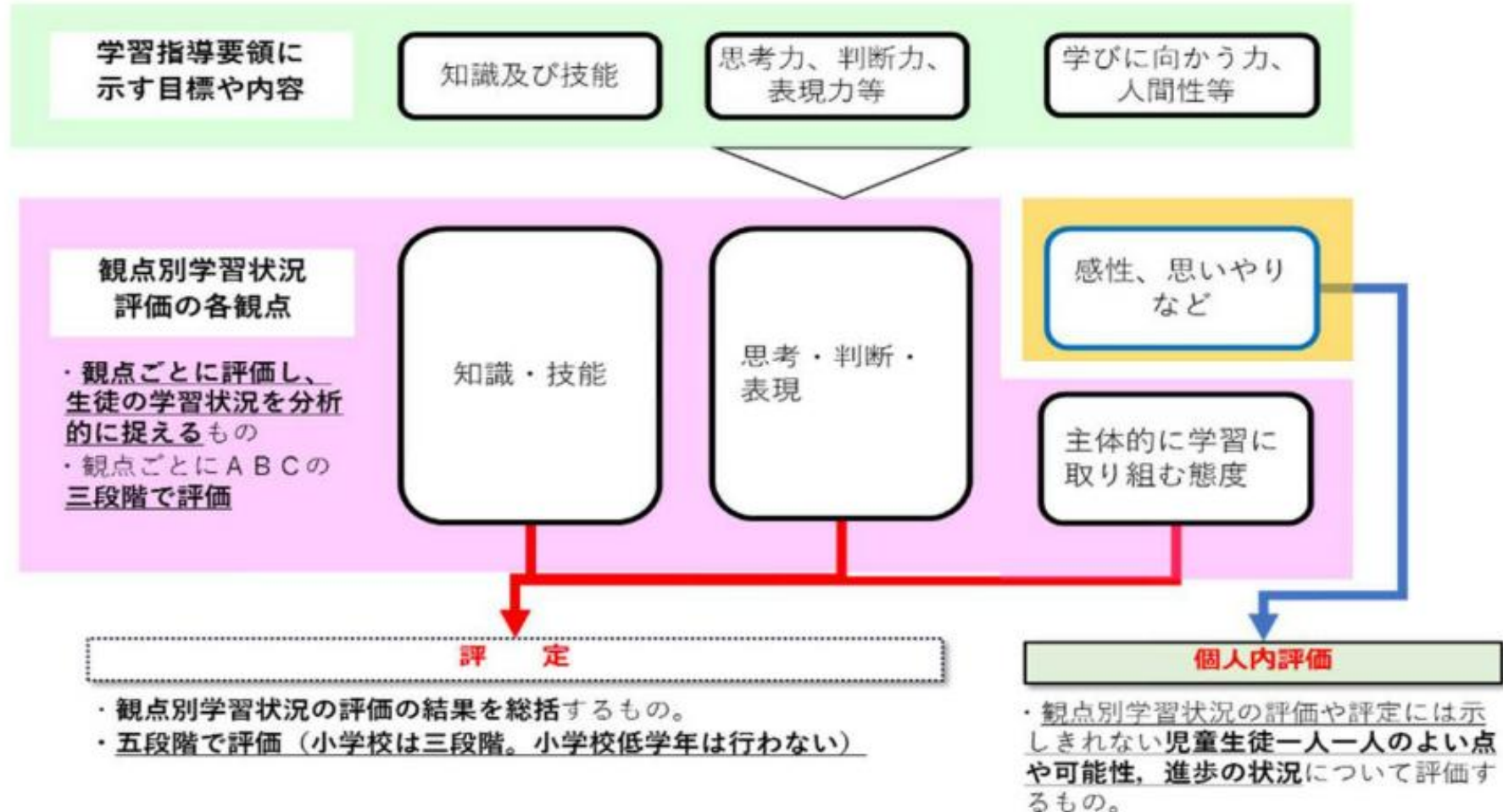
また、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない**児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況**については、「**個人内評価**」として実施するものとされている。（中略）特に『学びに向かう力、人間性等』のうち『感性や思いやり』などの児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要であること。」と示されている。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p 7 p 8

各教科における評価の基本構造

各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



児童生徒の評価の在り方について（報告）の概要

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

「学びに向かう力、人間性等」

「主体的に学習に取り組む態度」 「感性、思いやりなど」



観点別学習状況の評価



個人内評価

知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けた
りするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行
錯誤するなど**自らの学習を調整**しながら、学ぼうとしているかどうか
という意思的側面を評価することが重要

※①粘り強い取組 ②**自らの学習を調整**

この2つの側面を一体的に評価

(愛好的態度として)

単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」の設定例

例 低学年 マットを使った運動遊び

(1) 知識・技能

| 単元の評価規準 | 「十分満足できる姿」の設定例 |
|---------------------------------------|---|
| ①マットを使った運動遊びの使い方について、言ったり実際に動いたりしている。 | ・ マットを使った運動遊びの行い方の 留意点 を友達や教師に 詳しく 伝えたり、カードに書いたりすることができる。 |
| ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 | ・ いろいろな転がり方を 連続して 行うことができる。（何度も繰り返しできる） |
| ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。 | 体を大きく使って 倒立やブリッジを行うことができる。 |

- ・ 知識においては、運動遊びの行い方をより詳しく言ったり書いたりしている姿や、実際に正確に行っている姿で見取ることが想定される。
- ・ 技能においては、連続してできる、滑らかにできる、安定してできるなど、よりよくできる姿で見取ることが想定される。

単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」の設定例

例 低学年 マットを使った運動遊び 表現遊び

(2) 思考・判断・表現

| 単元の評価規準 | 「十分満足できる姿」の設定例 |
|--|--|
| ①坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 | ・コースの特徴に応じた動きにはどんなことがあるのかを考え、試行錯誤しながら選んでいる。 ・動きに合わせてコースの形などを改良している。 |
| ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 | ・動物などの動きの特徴や建造物の特色を踏まえ、自分の動きをよりよくする行い方を選んでいる。 |
| ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり、カードに書いたりしている。 | ・友達のよい動きの特徴を、擬態語や身振りなど多様な表現を用いて具体的に友達に伝えたり、カードに書いたりしている。 |

- ・思考・判断においては、設定された活動をもとに、自分なりにさらに工夫しようとしていることが行動や言葉として表出される姿で見取ることが想定される。
 - ・表現においては、友達のよい動きや自分が工夫した動きを、言葉や動作、身振りなどの多様な表現方法を用いて友達や教師に伝えたり、カードに書いたりする姿で見取ることが想定される。

単元の評価規準を基にした「十分満足できる姿」の設定例

例 低学年 表現遊び (3) 主体的に学習に取り組む態度

| 単元の評価規準 | 「十分満足できる姿」の設定例 |
|---|---|
| ①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 | ・動物などの真似をした遊び方や前転がり、後ろ転がりなどの転がり方に バリエーション を付けて試している。 |
| ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 | ・自分が楽しむだけでなく、 グループの友達 を励ましたり、応援したりしている。 |
| ③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 | ・場の準備や片付けを 率先して 行っている。 |
| ④場の安全に気を付けている。 | ・自分のことだけでなく、 周囲の安全 にも気を配っている。 |

- ・愛好的な態度においては、課題の解決に向けて、**意欲的に取り組もう**としている姿で見取ることが想定される。
- ・公正や協力に関する態度においては、**公平・公正な態度と友達をよりよく支えよう**としている姿で見取ることが想定される。
- ・責任や参画に関する態度においては、**グループでの活動等で生じる自分の役割を十分に果たそうとしている姿**で見取ることが想定される。
- ・共生に関する態度においては、自分と課題の解決が異なる場合においても、**違いを認め、自分事として引き取ろうとする姿**で見取ることが想定される。（低学年においては内容に示されていない。）
- ・健康・安全に関する態度においては、**自分の安全だけでなく、友達の安全の確保にも留意し、行動する姿**で見取ることが想定される。

5 毎時間の観点別評価の進め方

(1) 指導と評価の重点化

重点内容を絞ることは、授業改善の視点を踏まえたPDCAサイクルの確立の観点においても重要である。児童の実態等を考慮し、重点内容を計画的に設定することは、指導内容の明確化を図るとともに、評価計画の立案にも生かされるものであるため、指導と評価のつながりをより確かなものにすることが考えられる。

(2) 評価後の指導の継続と再評価の重要性

ある児童において、単元の前半に評価の機会を設定した項目がBまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBとなるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方であることから、単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要である。指導したことがどの程度身に付いているかを評価することは、単元の途中や終盤等において指導方針の修正を図るうえで極めて重要である。つまり、単元の目標を踏まえて評価規準を作成し、評価の観点を明確にしたうえで指導に当たることにより、指導内容が一層明確になると考えることができる。

まとめ

体育の授業を作る（考える）際には…

- 運動の特性（保健の内容）
- 目標、評価規準の設定
- 児童の実態に合った学習環境
- 運動に意欲的でない子への配慮
- 指導と評価の計画
- すべての児童に課題がずっとある（自己、チーム）
- ICTの効果的な活用
- 他者と協働的に

体育の授業は…

「よく動けた」

「みんなと協力できた」

「できるようになった」

「わかった」を積み重ね

楽しく身に付く体育

豊かなスポーツライフの実現



学校体育実技指導資料 第8集 ゲーム及びボール運動



ゲームにつながる運動「フリーポイントゲーム」



○設定理由

- ・ 2対1や3対2という攻撃側に有利な設定から、守備側にマークされていないチームメイトを見つけてパスを通すことができるよう、ゲーム中の状況に対応できる判断とボール操作を高める。

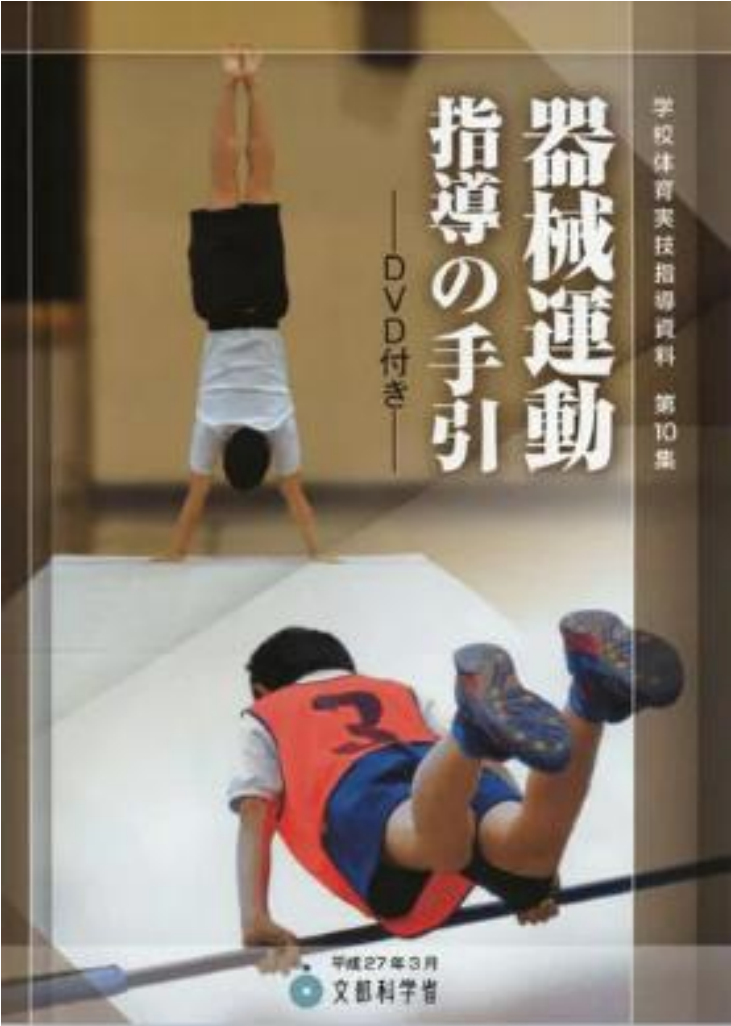
○ルール

- ・ フリーゾーンの中にいるチームメイトにパスが通れば1点。1分間に何点取れるかを競う。しかし、フリーゾーンには3秒しか入ることができない。フリーゾーンからフリーゾーンへのパスは認めない。

○留意点

- ・ 何回連続でパスが続くかを競ったり、フリーゾーンの形や数を変えてもよい。

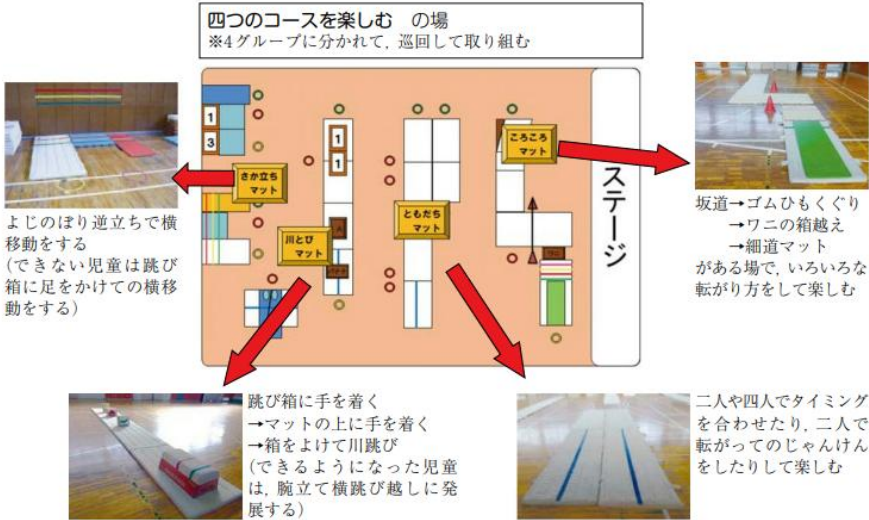
学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引



マットを使った運動遊び「感覚づくりの運動」

| | 動き方 | 大事なポイント |
|---------|--|--------------------------|
| ウマ歩き | ①腰を高く上げながら、両肩に体重を乗せて前に進む ②できるようになったら、進むスピードを速くしたり、遅くしたりして進む | ○腰を高く上げて進む |
| かえるの足打ち | ①両手を肩幅に開いてマットに手を着く ②両足をそろえてマットを蹴り、腰を高く上げる ③できるようになったら、片足で踏み切って行う また、足を打つ回数を増やすようにする | ○着いた手の少し前を見るようにする |
| ゆりかご | ①膝を抱え、へそを見て前後に転がるようにする ②そば屋の出前のように耳の横に両手を構え、しゃがみ立ちの形から後ろに転がり、両手で押して元のしゃがみ立ちに戻る ③ペアの相手に前に立ってもらい、タッチしたところから後ろに転がり、両手でマットを押して元に戻りタッチをする | ○へそを目で休めめ ○ ○ ○ |
| 背支持倒立 | ①腰に両手をあて、首と両肘の3点で体を支える (ペアの相手がつま先を持ち上げるとよい) ②できるようになったら、背支持倒立からゆりかごにつなげる | ○ |

場の設定の仕方



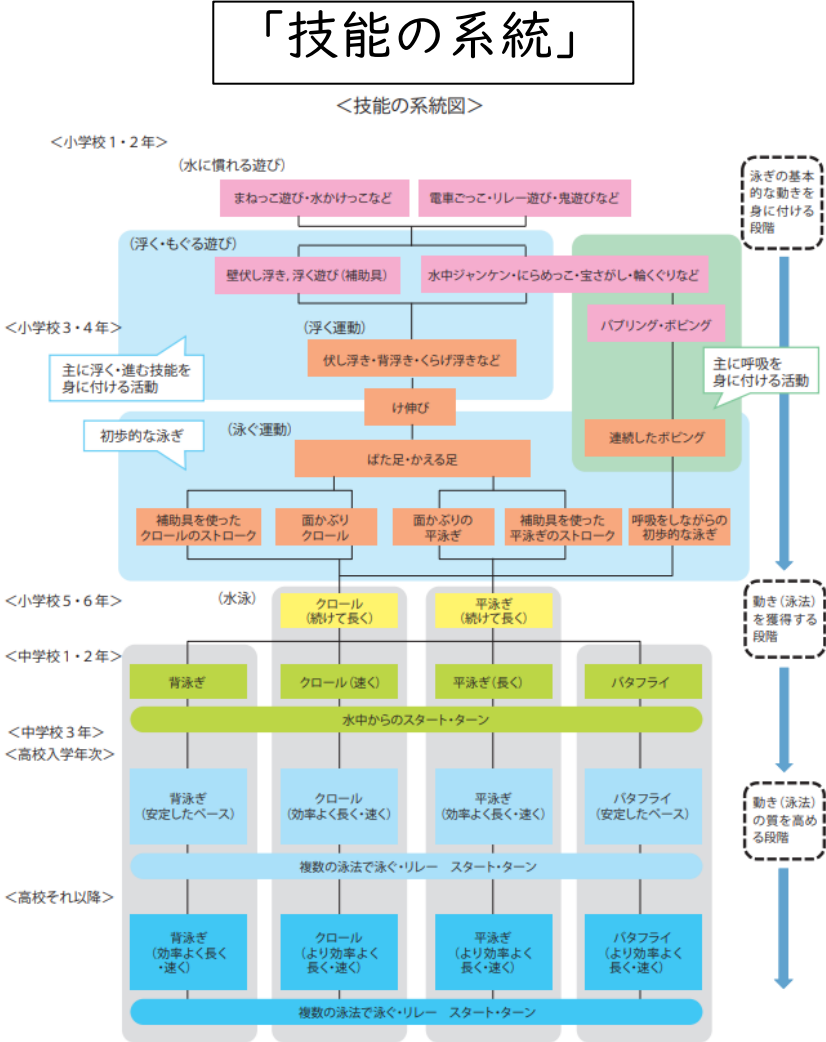
学校体育実技指導資料 第7集 体づくり運動



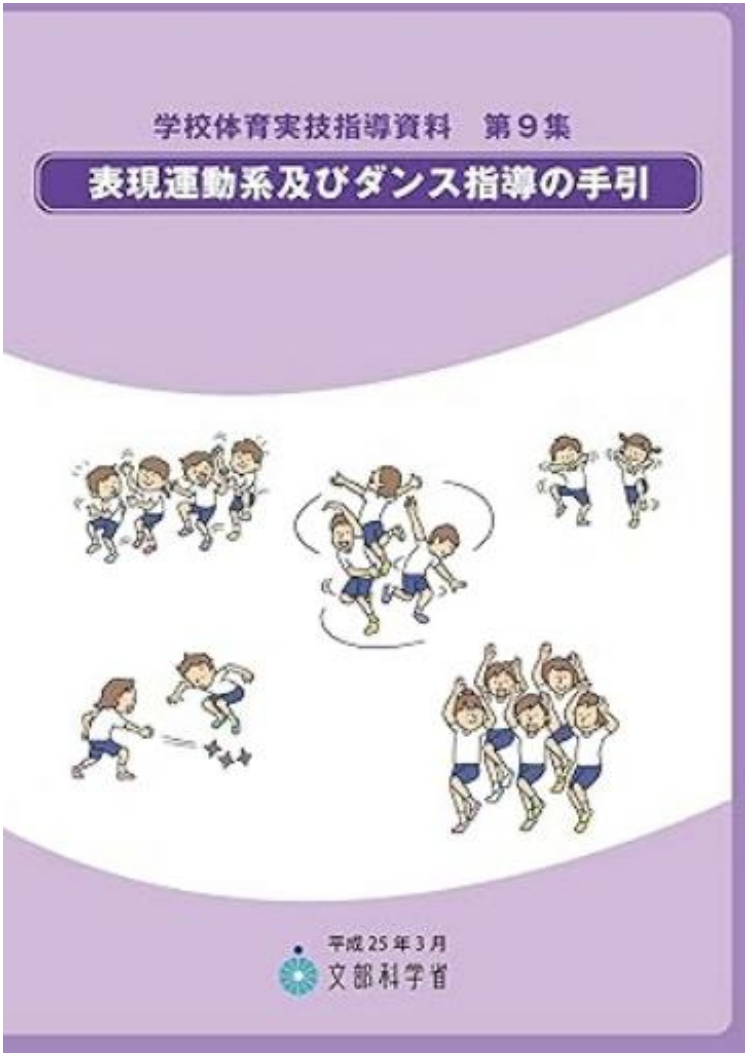
【小学校第5学年及び第6学年】

| | 小学校第5学年 | 小学校第6学年 |
|-------|--|--|
| 方法 | オリエンテーション 【体ほぐしの運動】 用具などを用いて ペアでのストレッチ 条件を変えて リズムに乗って 伝承遊び集団で 【体力を高める運動Ⅰ】「運動の行い方を知ろう」 巧みな動きを高めるための運動 動きを持続する能力を高めるための運動 体の柔らかさを高めるための運動 力強い動きを高めるための運動 ※自分の体力に合った運動を選んで取り組もう | オリエンテーション 【体ほぐしの運動】 用具などを用いて ペアでのストレッチ 伝承遊び集団で 条件を変えて リズムに乗って 【体力を高める運動Ⅰ】「運動の行い方を知ろう」 巧みな動きを高めるための運動 動きを持続する能力を高めるための運動 力強い動きを高めるための運動 体の柔らかさを高めるための運動 【体力を高める運動Ⅱ】「運動の行い方を工夫しよう」 ※自分の体力に合った運動の行い方を工夫しよう |
| 学習過程 | | |
| 内容 | 体ほぐしの運動 気付き 調整 交流 体力を高める運動 巧 持続 柔 力 運動を選ぶ | 体ほぐしの運動 気付き 調整 交流 体力を高める運動 巧 力 持続 柔 行い方の工夫 |
| 運動 | | |
| 態度 | 場の整理・安全の保持 観察 分担された役割を果たす 観察 進んで取り組む 学習カード 観察 約束を守る助け合う 観察 ねらいに応じた運動の行い方を選ぶ 学習カード 観察 | 進んで取り組む 学習カード 観察 場の整理・安全の保持 観察 約束を守る助け合う 観察 分担された役割を果たす 観察 ねらいに応じた運動の行い方を選ぶ 学習カード 観察 |
| 思考・判断 | | |

学校体育実技指導資料 第4集 水泳指導の手引（三訂版）



学校体育実技指導資料 第9集 表現運動系及びダンス指導の手引



「小学校の実践例」

第1部 小学校の実践例

第1学年及び第2学年 「表現リズム遊び」(はじめの段階)

どうぶつランドでへんしん!

1 授業の基本的な構想

(1) 授業のねらい

この単元は、低学年の表現リズム遊びにおける「はじめの段階」を想定した単元です。低学年の表現リズム遊びは、「リズム遊び」と「表現遊び」で構成され、「リズム遊び」では軽快なリズムに乗って踊ったり、「表現遊び」では身近な題材の特徴をとらえて、そのものになりきって表現したりすることを楽しくできるようにします。本事例では、なまりやリズム運動的な動きを好み、この時期の児童の発達の特徴を踏まえ、1時間の中に「リズム遊び」と「表現遊び」の両方を組み合わせて単元を構成しています。

「リズム遊び」では、スキップで弾んで跳ねるようなロックやサンバなどの軽快なリズムの曲を取り上げ、リズムに乗って全身で弾んで踊って楽しめるようにします。

「表現遊び」では、身近で関心が高く特徴のある具体的な動きを多く含む「動物」を取り上げました。「サルが〇〇しているところ」のように動物の具体的な動きをとらえ、全身の動きに高低の差や速さの変化をつけて印象的に踊ったり、変化する場面を入れて簡単なお話で続けて踊ったりして楽しめるようにします。

＜どんな題材を・どんな動きで＞

| リズム遊び (簡単なフォークダンスを含む) | 表現遊び「どうぶつランドでへんしん!」のイメージと動き | | | | | | | | | |
|---|--|---|----|-------|--|---------------------------------------|---|-----------------------|----------------------|----------------------|
| ・軽快なリズムの曲に乗って ・弾んだり、回ったり、ねじったり等、全身でリズムに乗って | <table border="1"><thead><tr><th>動物</th><th>昆虫</th><th>海の生き物</th></tr></thead><tbody><tr><td>・サルが木登りしている ・ヘビがよるよる ・ワニがえものをねらう 等</td><td>・チョウがみつをすう ・蝶と戦うカマキリ ・えさを探すアリ 等</td><td>・トビウオが魚の上を飛ぶ ・クラゲがふかふか漂う ・タコが膨らましてすみをはく 等</td></tr><tr><td>・律動的に、ダイナミックに等、変化をつけて</td><td>・硬い動き、柔らかな動き等、変化をつけて</td><td>・漂う、泳ぐ、奇妙な動き等、変化をつけて</td></tr></tbody></table> | 動物 | 昆虫 | 海の生き物 | ・サルが木登りしている ・ヘビがよるよる ・ワニがえものをねらう 等 | ・チョウがみつをすう ・蝶と戦うカマキリ ・えさを探すアリ 等 | ・トビウオが魚の上を飛ぶ ・クラゲがふかふか漂う ・タコが膨らましてすみをはく 等 | ・律動的に、ダイナミックに等、変化をつけて | ・硬い動き、柔らかな動き等、変化をつけて | ・漂う、泳ぐ、奇妙な動き等、変化をつけて |
| 動物 | 昆虫 | 海の生き物 | | | | | | | | |
| ・サルが木登りしている ・ヘビがよるよる ・ワニがえものをねらう 等 | ・チョウがみつをすう ・蝶と戦うカマキリ ・えさを探すアリ 等 | ・トビウオが魚の上を飛ぶ ・クラゲがふかふか漂う ・タコが膨らましてすみをはく 等 | | | | | | | | |
| ・律動的に、ダイナミックに等、変化をつけて | ・硬い動き、柔らかな動き等、変化をつけて | ・漂う、泳ぐ、奇妙な動き等、変化をつけて | | | | | | | | |

(2) 授業づくりの考え方

単元を通して毎時間「表現遊び」と「リズム遊び」の両方を組み合わせて行います。毎時間の前半では、リズムに乗って楽しく体を動かすリズム遊びの時間を15分程度とり、児童にとって親しみのあるロックやサンバなどの軽快なリズムの曲を複数取り上げ、先生や友達とまねをしたり、新しい動きを見付けたりして踊って楽しみます。毎時間の後半では、「動物」「昆虫」「海の生き物」の小テーマごとにイメージをひろげて、特徴的な動きをみんなできくつかやってみたり、友達と好きな動物を選んで、簡単なお話で続けて踊ったりして楽しめるようにします。単元の最後には面白かった動物の様子や動きを出し合い、みんなで一緒にメドレーにして踊って締めくくります。

＜どのように学習を進めるのか＞

| 軽快なリズムに乗って踊ったり、動物のいろいろな様子や特徴をとらえた動きで印象的に踊ったりする |
|--|
| ＜リズム遊び＞ 軽快なリズムの曲に乗って自由に踊る |
| ＜表現遊び＞ 動物 昆虫 海の生き物 小テーマの特徴的な動きを、教師と一緒にいくつかみんなでやってみる 友達と好きな動物を選び、簡単なお話で続けて踊る |

どうぶつランドメドレー

これまで踊った中で面白かった動物の様子や動きをみんなでする

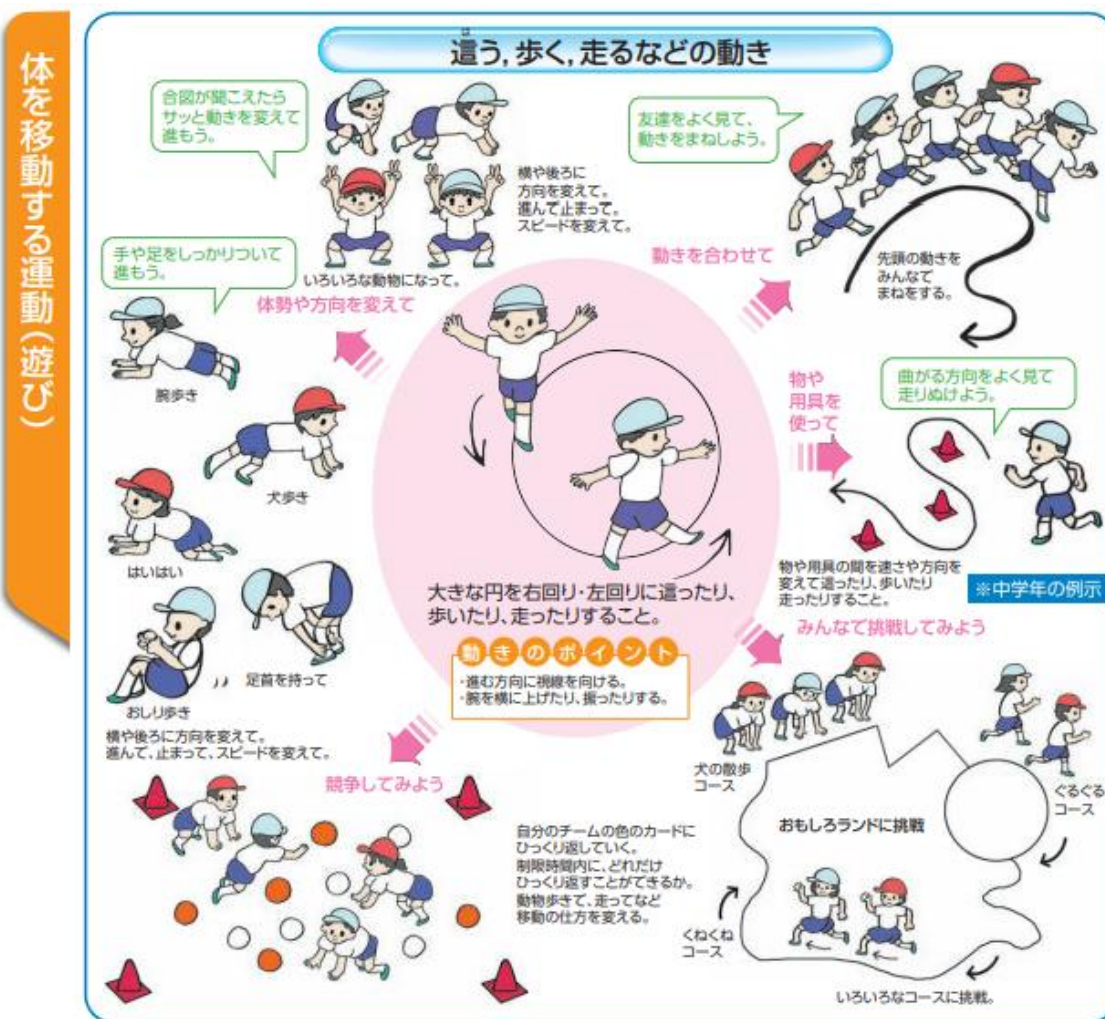
授業づくりにおける参考資料

小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 高学年

小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック



多様な動きをつくる運動（遊び）



体育健康安全課ホームページ

教育委員会体育健康安全課

ログイン

徳島県教育委員会 体育健康安全課

徳島県徳島市万代1丁目1番地 TEL : 088-621-3167 FAX : 088-621-3173



メニュー

[ホーム](#)

[学校体育](#) ▼

▶ [小学校](#)

▶ [中学校](#)

▶ [高等学校](#)

学習指導案様式

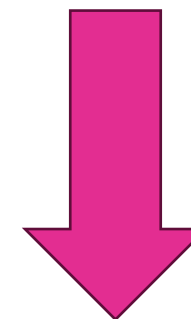
学習指導案の様式を掲載しています。ご活用ください。

[01_【小学校体育（運動領域）】学習指導案様式（word）.docx](#)

[02_【小学校体育（運動領域）】（例）学習指導案（第4学年マツト運動）.pdf](#)

[03_【小学校体育（保健領域）】学習指導案様式（word）.docx](#)

[04_【小学校体育（保健領域）】学習指導案様式（作成のポイント）.pdf](#)



これらの資料は
体育健康安全課
HPにもアップし
ています！

新年早々、ご静聴ありがとうございました。
今年が先生方にとってよい
年になりますように…

